

日本語学習者の副詞「ちょっと」の習得について —中国人日本語学習者に対する指導方法をめぐって—

辻 周吾

神戸市外国語大学 非常勤講師

要旨

日本語の副詞「ちょっと」は、日本語母語話者によって、さまざまな場面で使用されている。そして、円滑にコミュニケーションを進めるための役割を担っている。しかし、その多様な用法は、かえって日本語学習者の頭を悩ませる原因にもなっている。実際に、日本語学習歴が長い上級者でさえも、そうした特徴を理解していないことが多い。

本研究では、中国人日本語学習者を対象に、日本語と中国語の対照分析から、どのような用法のとき、どのような特徴を説明すれば分かりやすいのかを考察した。分析を通して、「ちょっと」の用法には、中国語の“一下”“一点”“有点”“不太”“喂”“不要”などが当てはめられることがわかった。いずれも、中国語では、「ちょっと」の持つニュアンスを和らげる特徴や、程度大を暗示的に伝える特徴をうまく表すことができない。こうした特徴こそが、中国人日本語学習者の頭を悩ませる原因になっている。特に、中国語の“有点”は、日本語の「ちょっと」との微妙なニュアンス差から、上級者をも悩ます原因となっている。以上の注意点を提示していくことで、中国人日本語学習者の副詞「ちょっと」の習得にもつながるだろう。

キーワード：ちょっと、中国人日本語学習者、日中対照分析、和らげ、
暗示的な強め

0. はじめに

日本人同士のコミュニケーションにおいて、「ちょっと」ということばは頻繁に使用される。しかし、「ちょっと」は文脈によりその意味を変容させるため、日本語学習者に対する誤解や摩擦を招くのが現状である。この多義性、多機能について、留学生からは「ちょっと行ってきます。」「ちょっと考えてみます。」での「ちょっと」は何を意味しているのか把握できないという意見が多い。実際に、多くの日本語教科書では初級レベルで、「ちょっと」における「少量」という量副詞・程度副詞としての意味を、中級レベルで、「明日の夜はちょっと…。」のような未完成文の言いさしでの断り用法を指導する。

こうした用法の分類に関しては、すでに彭(2004)、中道(1991)、岡本・斉藤(2004)により、その文型や特徴、コミュニケーション機能がほぼ明らかにされている。本研究では、従来の研究のように日本語「ちょっと」における用法を細分化する手法はとらない。ここではさらにテーマを絞って、中国人日本語学習者を対象に、どのように「ちょっと」の多様な用法を指導していくかを考察する。その際に、岡本氏・斉藤氏の用法を参考にした。まず、日本語の中国語訳から、そうした用法に対応する中国語を見つけ出した¹⁾。つぎに、対照分析の視点から、中国人日本語学習者に対して、どのような用法のとき、どのような特徴の中国語を分かりやすく提示すればいいのかを考察した²⁾。

1. 副詞「ちょっと」における先行研究

まず、日本語の「ちょっと」の用法に関する先行研究をみていく。すでに述べたように、彭(2004)、中道(1991)、岡本・斉藤(2004)の研究が挙げられる。しかし、母語の視点からの研究は多いが、第二言語の視点からの研究は少ないのが現状である。

1.1. 彭飛氏の先行研究

副詞「ちょっと」の多義性、多機能において、配慮的な特徴に重点をおくものとして、彭氏の研究が挙げられる。彭氏は「ちょっと」を、物理的に数量や程度が少ないことを表す「単純修飾」と、対人的、対話の場面に応じて文を弱めたり強めたりする「場面的添加」とに分類した。なお、「場面的添加」とは、相手や場面に応じて、必要とする表現(語句)を添加することによって、「緩和」の機能を果たすものだという。そして、これらを以下の7つに分類している。

(1) 話者の適応力

主に話者自身の能力、都合、可能性などを指す。相手に応答する発話形式が多く、自分のこと(能力、適応力、都合)を誇張しないで最低限に抑える特徴を持つ。そして、自分にその可能性がないことを暗示する場合と、相手に何かを断る場面に使用される。例えば、「ぼくはちょっと都合が悪いのですが……。」、「私にはちょっとできないわ。」などがそれである。

(2) 話者の行為

主に話者自身の行為を指す。その行為が未発生の場合は、相手に迷惑をかけるかもしれないことを想定し、あるいは相手に迷惑をかけたかもしれないことを意識し、「ちょっと」の語を添える。それによって詫びの気持ちを持たせる。例えば、「ちょっとお先に。」、「ちょっと買い物に行ってきますので、よろしくお願いします。」などがそれである。

(3) 話者の判断

主に話者自身が動作主で、話者の下した判断内容(断定、推量)を指す。そして、本来の意味である「少し」の「単純修飾」と、「場面的添加」の両方に取れるが、後者の「場面的添加」での意味の方が優勢である。例えば、「あそこにはちょっとなさそうぞ。」、

「君にはちょっと難しいかもしれない。」などがそれである。

(4) 話者の評価

主に話者の物事に対する評価を指し、マイナス評価への強い傾向が認められる。さらに、「場面的添加」の意味にしか取れない。例えば、「あの人はちょっと。」、「ちょっとニュアンスが（違う）ね。」などがそれである。

(5) 勧誘

主に話者が相手に勧め誘うことを指す。さらに、「単純修飾」と「場面的添加」の両方の意味に取れるが、後者での意味の方が強い。例えば、「ちょっと一杯、いかがですか。」、「ちょっとお茶でも飲みませんか。」などがそれである。

(6) 依頼希求

主に話者の相手への依頼を指す。そして、「単純修飾」と「場面的添加」の両方の意味が考えられる。例えば、「すみませんが、ちょっと消しゴムを貸していただけませんか。」、「相談事があるから、ちょっと出て来てくれませんか。」などがそれである。

(7) 注意喚起

主に話者が相手に注意を喚起することを指す。そして、「単純修飾」と「場面的添加」の両方の意味に使われるが、後者の「場面的添加」の方に力点を置いている。例えば、「ちょっと気をつけて。」、「ちょっと、冗談じゃない。」などがそれである。

彭氏は、「話者の行為」、「話者の評価」以外の5つの機能には、「少し」の意味である「単純修飾」の働きが付いてまわると述べている。「場面的添加」には「心理的（対人距離の）」特徴があり、話者の心理によって7つの機能もそれぞれ異なる。一方で、「単純修飾」には「物理的（程度量の）」特徴があり、その機能も1つだけである。しかし、このように多くの「場面的添加」に、「単純修飾」の働きが付いてまわるという事実は、物理的な機能が「ちょっと」の根幹の機能であることを示しているからだという。また、彭氏は副詞「ちょっと」の機能において、「和らげ」（否定を和らげる役割）と、「暗示的な強め」（否定を暗示的に強める役割）の存在を主張している。

1.2. 中道氏の先行研究

前述した、彭氏における「単純修飾」と「場面的添加」の特徴は、中道氏の説でも確認できる。中道氏は、「ちょっと」の意味・用法を「命題内容に情報を付加する用法」、および「数量・程度に関する命題内的意味を含んではいても、それは次第に希薄になり、逆に、なんらかの判断態度、伝達態度を示すことが主な機能となってくる（もの）」という2つに分類した。すなわち、前者が「単純修飾」に、後者が「場面的添加」に相当するものである。そして、それぞれを以下のように分類している³⁾。

(1) 命題内容に情報を付加する用法

①数量が少ないことを表す用法

- もうビスケットの残りはちょっとだ。
- ウィスキーがちょっと残っている。

②程度が低いことを表す用法

- 今日は昨日よりちょっと涼しいようですね。

(2) 命題内的意味を含んではいても、それが次第に希薄になるもの

③程度が高いことを表す用法

- これでも昔はちょっと知られたプレイボーイだったんだぞ。

④呼び掛け等として用いる用法

- 「君、ちょっと」「はい、何でしょう」

⑤伝達態度をあいまいにする用法

- 今日はちょっと寄るところがあるので、ここで失礼します。
- やはり決められた手続きを踏んでいただきませんと、ちょっと……。
- 「顔色が悪いけど、どうかしましたか」「ええ、ちょっと」

⑥間つなぎの用法

- これはまあ、ちょっと、なんというか、むずかしい問題でして、お答えもしにくいわけなんですよ。

上記の分類は、「単純的修飾」、ならびに「場面的添加」の特徴と重なる部分が多い。ただ、後者の分類は、配慮的な機能というよりも、あくまでも派生的な用法として位置付けられている。それぞれの特徴をみると、③では「暗示的な強め」と同様に、逆の意味を表す語を用いて、反語としての表現効果を生み出している。④では「注意喚起」として、言葉を発して相手が注目することを要求している。⑤、⑥に関しては、「和らげ」として、依頼や断りの場面で、命題内容をはっきり伝えることを拒む態度を示している。中道氏の説でも副詞「ちょっと」を、量副詞、程度副詞の「物理的な量の少なさ」、「程度の低いこと」、「程度が高いこと」という命題内容に情報を付加する特徴から、「和らげ」、「曖昧にする」という命題内的意味が希薄になる特徴まで広がるものとしている。ただ、中道氏の説では、副詞「ちょっと」の根幹機能である「少量」から、その派生的意味に関しては言及しているが、その配慮的機能までは言及していない。

また、中道氏は、副詞の「ちょっと」の指導について、「その語としての意味を理解させることはかなり困難であり、こうした用法は、使用場面などの状況とあわせて、用法として提示し、各用法の伝達上の機能・効果を軸として理解させることになるだろう。いずれの用法も、くだけた話しことば的な文体となることにも注意を要する」と述べている。

1.3.岡本氏・斉藤氏の先行研究

副詞「ちょっと」の配慮的機能を整理したものとして、岡本氏・斉藤氏の説が挙げられる。岡本氏・斉藤氏は、「ちょっと」の使い方を整理して、どのように提示していけば日本語学習者に対して効率的な指導ができるのかを考察した。そして、コミュニケーション機能のみに焦点を当て、これらを以下の7つに分類している。

(1) 依頼や、希求、指示行為の負担をやわらげる

主に「～てください」、「～てくれ」、「～てほしい」、「～てもらえないか」のように聞き手の意思を尋ねる形式に、「ちょっと」を用いることで、相手に求める行為を軽くする。すなわち、「ちょっと」のやわらげ効果によって、相手にその行為を受け入れやすくする。

(2) 否定的内容の前置き

主にマイナスイメージ、重大ではないが不利益なこと、不都合なことなど、利害関係が起こる可能性がある場合に用いる。「ちょっと」を用いることで、聞き手にその負の内容を受け止める心の準備を与えたり、話し手の心理的な負担を弱めたりさせる。

(3) 断りを受けやすくする

主に「(日曜日は) ちょっと……。」と言いさし、重要な述部を省略してしまう表現形式をとり、相手に対して期待にそえずに申し訳ないというニュアンスを与える。同時に、言いにくい述部を聞き手に察してもらおう方法を取ることで、話し手の意思決定に聞き手を参加させ、共同作業の会話に引き込みながら断りの了解を得ることができる。

(4) 呼びかけ

主に「ちょっと」自体に呼びかけとして、注意を喚起する働きを持たせる。ただし、「ちょっと、スープに虫が入っていますよ。」のように、相手が目の前にいる場合は、抗議などの感情を示す場合もある。

(5) とがめ

自分の利益を聞き手によって損なわれたと思ったとき、「ちょっと」を用いることで、その不満や怒りを表出する。「ちょっと」にプロミネンスを置くことで、話し手の不満や怒り、抗議などの感情を強めることができる。

(6) 間つなぎ

主に「あの、その、ちょっと、なんて言ったらいいのか」のように、言いよどみを埋める間投詞の働きで、沈黙を回避しようとする。

岡本氏・斉藤氏も、日本語の「ちょっと」が、本来の意味である「物理的な量の少なさ」、「程度の低いこと」、「程度が高いこと」から派生して、聞き手への気配りを押し出しながら、話し手の責任を回避する役割があると主張している。また、日本語学習者に対する指導については、その機能の提示順を「負担をやわらげる」から「間つなぎ」とすることで、より効率的になると述べている。岡本氏・斉藤氏の説は、日本語指導上の一定の項目を整理したものといえる。

本研究では、かえって日本語学習者を混乱させないように、先行研究の分類以上の細

分類は行わない。むしろ、岡本氏・斉藤氏が日本語学習者への用法を整理していることから、その用法を基にして、中国人日本語学習者を対象に、どのように「ちょっと」を指導していくかを考察する。従来の研究と違う点は、その対象を中国人日本語学習者に絞っていることだ。

研究方法としては、まず、日本語の中国語訳（日本の小説とその中国語訳、および中日対訳コーパス）から、両氏の用法に対応する典型的な中国語を見つけ出した。本研究では、そうした中国語を「当てはめられる例文」と表現している。また、用法に対応する例外的な中国語を「当てはめられない例文」と表現している。すなわち、前者は多数の例であり、後者は少数の例である⁴⁾。なお、「当てはめられない例文」の内容は、中国語の直訳や慣用句など、さまざまである。

本研究では、前者の典型的な「当てはめられる例」を中心に分析を進めていく。したがって、分析結果で示した中国語だけで、「ちょっと」の用法のすべてを網羅できるわけではない。当然、後者の「当てはめられない例」の影響も考えられる。本研究では、日本語教育において、中国人日本語学習者への日本語の「ちょっと」の指導について、最低限、押さえておきたい特徴を扱っている。少数例である「当てはめられない例」のさらなる分析については割愛する。

2. 副詞「ちょっと」における対照分析

以下において、どのような用法のとき、どのような特徴の中国語を分かりやすく提示すればいいのかを考察していく。その際に、対照分析の手法を用いる。まず、日本語と中国語の間の違いを対照的に記述し、学習者の誤りを予測する。そして、そこで得た知識を教材作りや学習指導に生かして、言語学習を効果的に進めていこうとするものである。すでに述べたように、その言語資料として、日本の小説とその中国語訳、および中日対訳コーパスを用いた。また、岡本氏・斉藤氏の用法を基に対照分析を行った。

2.1. 依頼や、希求、指示行為の負担をやわらげる

この用法の特徴について、周(1994)は『『ちょっと』は主に、話し手が聞き手に行為を求める時に使われる。その行為によって、話し手と聞き手の間に利害関係が生じ、話し手にとっては利益に、聞き手にとっては不利益になると話し手が予想した時に用いられる。また、これは主に依頼の場合と咎めの場合に分けられる。依頼の場合、内容的にはそれほど重いものではない、話し手と聞き手とが気軽に行為が求めることができる間柄に限って、使われうる」と述べている。すなわち、話し手と聞き手の利害関係において、そして親しい間柄において、それほど重くない内容を依頼するときに、「ちょっと」で言葉を和らげるというものである。まさしく、この用法の特徴を如実に表している。

しかし、先行研究でも取り上げたが、「ちょっと」をともなう依頼の表現には、「ちょっとお話があります。」、「ちょっと相談があります。」のように、それほど重くない内容

どころか、重い内容を暗示するものもある。こうした特徴は、中国人日本語学習者のみならず、日本語母語話者でも見逃しやすい。それだけに、誤用につながる原因の一つだと考えられる。それも視野に入れて、対照分析を進めていきたい。

この用法の中国語について、115例のうち、副詞の“一下”が41例、重ね型のAA型が33例、不定量詞の“一点”が23例であった。主に、この3種類の中国語が対応していることが確認できる。下記において、例文から、それぞれの中国語の言語上の特徴、および指導上の注意点を分析していく⁵⁾。

(1) “一下”

副詞の“一下”は動詞の後ろに用いて、“让我看一下”（ちょっと見せてください）、“请查一下”（ちょっと調べてください）、“请帮我一下”（ちょっと手伝ってください）のように、「ちょっと～する、してみる」という動作を試みる意味を表す。いずれも相手への言葉を和らげている。さらに、“我有点事想拜托你一下”（ちょっとお願いがあります）、“其实是有点事商量一下”（ちょっと相談があります）のように、重い内容を暗示させることも可能である。こうした点で、「ちょっと」と一致している。しかし、“一下”は主として時間の短さを示すものである。時間の短さを示し、行為の軽減を表すことはできるが、“吃一下”（ちょっと食べてください）、“喝一下”（ちょっと飲んでください）のように、数量の少なさを示し、行為の軽減を表すことはできない。また、日本語の「ちょっと」ほど、暗示的に用いられることも少ない。この点が、「ちょっと」との相違である。

(2) AA型

重ね型のAA型として、“你画画”（絵で、ちょっと描いてみて）、“你读读”（ちょっと読んでみて）、“你尝尝”（ちょっと食べてみて）のように、「ちょっと～する、してみる」という動作を試みる意味を表す。そして、気軽さを表す特徴が強い。この点で“一下”と共通している。また、“请看看论文”（ちょっと論文を見て）という表現で、実は膨大な量であるといった、暗示的な意味にも受け取られるが、そうした用法で用いられることは少ない。あくまでも気軽な内容を表している。

(3) “一点”

不定量詞の“一点”は、形容詞や動詞の後ろに置いて、“太多了，帮我吃一点儿”（多すぎるから、ちょっと食べてください）、“我酒量不高，帮我喝一点儿”（お酒は弱いから、ちょっと飲んでください）、“放低一点儿”（音をちょっと下げてください）のように、数をかぞえられない少しの量を表す。また、本来の意味である少しから、語気を和らげる行為内容の軽減も表す。さらに、“借一点儿钱”（お金をちょっと貸してください）という表現で、実は多額のお金であるといった、重い内容を暗示させることも可能である。“一下”やAA型よりも、「ちょっと」と一致する部分は多い。しかし、“看一点”（ちょっと見てください）、“查一点”（ちょっと調べてください）のように、数量とは関係ない動作には使えない。また、客観的な数量の少なさを示しているため、暗示的に用いられることも少ない。「ちょっと」との共通点は多いが、その使用範囲は広くない。

(4) 当てはめられない例

なお、残りの18例は、“请等一会儿”（ちょっと待っててください）、“请让我看一看”（ちょっと見せてください）、“给我帮个忙”（手伝って）、“这事就拜托你了”（お願いします）など、これらでは当てはめられない例である。“一会儿”や、重ね型の“A—A型”などを当てはめている。また、“帮忙”（手伝う）、“拜托”（お願いする）などを用いて、「ちょっと」を無視した訳もある。

(5) 指導ポイント

以上のように、この用法では“一下”、AA型、“一点”を用いて、それぞれの特徴を補完し合っている。それぞれ、“一下”とAA型は行為内容の軽減を、“一点”は量程度の軽減を補って、和らげている。さらに、使用頻度は低いが、“一下”、AA型、“一点”は、重い内容を暗示するという点で一致する。したがって、中国人日本語学習者に対して、「依頼するときの『ちょっと』は、“一下”やAA型のように、『ちょっと～してみる』ということを表して言葉を軟らかくしたり、“一点”のように、『少しです』ということを表して言葉を軟らかくしたりします。また、日本語の『ちょっと』は、頼みづらい内容を軟らかく伝えるときにも使われます。本当は大変な内容だけれども、それを軟らかく伝える用法です。中国語の“一下”、AA型、“一点”は、あまりそういう使い方はしません。」と説明すれば、理解しやすいだろう。その際に、こうした例文を板書やレジюмеで提示すると、より効果的である。

2.2. 否定的内容の前置き

この用法の中国語では、198例のうち、副詞の“有点・有些”が81例、副詞の“太・不太”が51例であった。主に、この2種類の副詞が対応している。下記において、それぞれの中国語の言語上の特徴、および指導上の注意点を分析していく。その際に、日本語の「ちょっと」と同じく、不利益や不都合なことなど、否定的内容を暗示的にほめかせられるのかどうかに関心したい。

(1) “有点・有些”

副詞の“有点”は動詞や形容詞について、“那个人有点儿怪”（あの人は、ちょっと変わっています）、“有点儿热”（ちょっと暑いですね）、“我有点儿累”（ちょっと疲れました）のように、「少し」や「少々」の意味を表す。そして、消極的・否定的な意味の動詞や形容詞の後ろに続いて、望ましくないことについていうことが多い。また、“有些”にもそのような意味があり、「少し」「いくらか」としながらも、“有些问题”（ちょっと問題です）、“有些失望”（ちょっと失望です）、“有些麻烦”（ちょっと面倒くさい）のように、望ましくないことを表している。なお、“有点”が話し言葉や書き言葉にも使われるのに対して、“有些”は主に書き言葉に使われる⁶⁾。“有些”はやや硬い表現のため、使用頻度は低い。いずれも日本語の「ちょっと」とは、本来の量程度が少量である、言葉を和らげる、重い内容を暗示するという点で一致する。

実際に、“有点儿热”という例文は、「ちょっと暑い」と表現することで、話者の不満を暗示的に伝えている。また、相手に対して話者の望む行動を取るよう働きかける点も、日本語と同じである。そして、“我有点儿累”という例文は、話者自身のことについて、「少し」と「かなり」の両方の意味が考えられる。また、相手に対する判断を言う場合は、“他有点儿累”（彼はちょっと疲れているようです）のように、量程度が少量であることのみを表している。ここでは、話者の価値基準において、相手に対する確実な判断が下せないことから、暗示的な特徴は含まれていない。これも日本語と同じである。しかし、中国語の“那个人有点儿怪”という表現は、暗示的な意味は強くない。“有点”は、「かなり」というより、むしろ「基準よりも少し上」という意味に近い⁷⁾。「かなり」の意味を伝える場合、中国語では、そのまま“那个人很怪”（あの人は、かなり変わっています）という表現を用いる。ここが「ちょっと」と違うところである。

また、ここでの例文の“有点”を、“有点～太～了”の形にすることも可能である。例えば、“那个人有点儿太怪了”（あの人は、ちょっと変わっています）、“我有点儿太热了”（ちょっと暑すぎます）、“我有点儿太累了”（ちょっと疲れすぎました）などがそれである。ここでは、「ちょっと～すぎる」の意味を表している。相手に対して、言葉を和らげる機能を保ちつつ、暗示的に「かなり」の意味を伝えている。また、“有点”のみの表現と比べると、程度は高い。こうした特徴から、日本語の「ちょっと」に近いものといえる。ただ、この場合、中国語では“太”の形がよく用いられる。

なお、中国語の“有点”はマイナスの意味の語とは共起しやすいが、プラスの意味の語とは共起しにくい。例えば、“那个人有点儿可爱”（あの人は、ちょっと綺麗です）、“有点儿方便”（ちょっと便利です）、“有点儿高兴”（ちょっと嬉しいです）などがそれである。いずれも不自然な表現になってしまう。これも日本語の「ちょっと」と違うところである。

(2) “太・不太”

副詞の“太”は、形容詞や動詞を修飾し、「あまりにも～すぎる」という極めて高い程度の意味を表す。“有点”と同じく、多くは望ましくないことを表す。例えば、“那个人太过分了”（あの人は、あまりにもひどすぎる）、“太难吃了”（あまりにもまずすぎる）、“态度太差了”（態度があまりにも悪すぎる）などがそれである。いずれも「あまりにも～すぎる」という暗示的な意味を直訳したものであり、「少し」という本来の意味とは相反している。つまり、直接的な表現である。

また、“不太”の形で否定の語気を和らげ、「あまり～ではない」という意味を表す。例えば、“那个人不太亲切”（あの人は、あまり親切ではない）、“不太和口味”（あまり口に合わない）、“不太舒服”（あまり気分がすぐれない）などがそれである。“有点”の特徴と同じく、量程度の少なさから言葉を和らげている。さらに、重い内容を暗示させている。実際に、ここでの“不太”を“有点不”に代えることも可能である⁸⁾。中国語の“太”は直接的な表現だが、“不太”は「ちょっと」の特徴と重なる部分が多い。しかし、

中国語の“那个人不太亲切”という表現は、「かなり」という暗示的な意味は強くない。“有点”と同じく、話し手の思い込み、聞き手の価値基準、両者の状況などが深くかわる場合、暗示の細かい意味まで表すのは難しい。

(3) 当てはめられない例

なお、残りの66例に関しては、“很不好”(とても悪い)、“真不像话”(本当にひどいです)、“比较难办”(かなりやりにくい)、“这个菜有一点辣”(この料理はちょっと辛い)、“比以前瘦了一些”(ちょっと痩せましたね)、“不是那样的”(それは違います)、“那是不可能的”(それは無理です)など、これらでは当てはめられない例である。この中では、“很”、“真”、“比较”などの暗示的な強めの直訳が目立つ。また、“一点”、“一些”などの和らげの訳もあれば、“不是”、“不可能”などの「ちょっと」を無視した訳もある。

(4) 指導ポイント

以上のように、“有点”や“不太”を用いて、否定的内容を暗示的にほのめかしていることが確認できた。また、“太”は直接的な表現として、否定的内容を表したものであり、本来の用法とはかけ離れている。こうした違いも、中国人日本語学習者が「ちょっと」の暗示的な意味を理解できない原因の一つだといえる。この点に注意して、中国人日本語学習者に対して、「否定の気持ちを伝えるときの「ちょっと」は、“有点”や“不太”のように、『少し』『あまり』という意味で表現を軟らかくします。また、“太～”のように、『かなり』『とても』という気持ちを含むことがあります。つまり、“有点”や“不太”という柔らかい表現で、“太～”という否定の気持ちを伝えることがあります。気をつけましょう。」と説明すれば、理解しやすいだろう。その際に、こうした例文を板書やレジュメで提示すると、より効果的である。

2.3. 断りを受けやすくする

この用法の中国語では、42例のうち、副詞の“有点”が12例、副詞の“只是”が9例であった。当てはめられる例は21例である。ちょうど当てはめられない例と半数ずつになっている。下記において、それぞれの言語上の特徴、および指導上の注意点を分析していく。

(1) “有点”

副詞の“有点”は、消極的・否定的な意味を持つ形容詞や動詞の前に置き、話し手にとって不本意なことを述べる場合に用いる。この用法では、そうした形容詞や動詞を和らげて、“明天有点不方便”(明日は、ちょっと都合が悪いです)、“明天有点忙，去不了”(明日は、ちょっと忙しいから、行けません)、“发表有点困难”(発表は、ちょっと無理です)のように使われることが多い。いずれも“有点”を用いることで、好ましくないこと、不愉快なことを相手に暗示的に伝えている。日本語の「ちょっと」と同じように、暗示的な意味を伝えることが可能である。しかし、こうした中国語の暗示的な意味は強くない。さらに、使用頻度も高くない。この場合、中国語ではよりはっきりした表現で、

“明天不行”（明日はだめです）、“发表可不行”（発表は無理です）と言う。“不行”は「だめ」という意味である。また、「明日はちょっと…」「発表はちょっと…」と省略して、「明天有点儿…」“发表有点儿…”とは言えない。“有点”には、文を最後まで言わない断り方がない。これも日本語の「ちょっと」と違うところである。

（2）“只是”

副詞の“只是”は接続詞として、「ただ」「ただし」「だが」という意味を表す。この用法では、後に続く形容詞や動詞を省いて、“只是，星期二…”（ただ、火曜日は…）、“只是，下个月…”（ただ、来月は…）、“只是，演讲…”（ただ、発表は…）のように使われることが多い。相手のお願いを受けて、条件をつけたり、その一部を断ったりしている。しかし、こうした内容の断り方だけであって、条件付加や一部の断りでない「火曜日は、ちょっと都合が悪いです」（星期二，有点不方便）などの断り方には“只是”は使われない。つまり、「ただ、火曜日は…」を「火曜日はちょっと…」の意味で捉えられる場合だけ、“只是”が当てはめられる。また、“只是”は軽い逆接を表し、接続詞として暗示的な意味を伝える特徴を持っている。この点も、「ちょっと」の特徴と重なる。しかし、語調がやわらかい言いさし表現で、言いにくい内容に用いられることは少ない。

（3）当てはめられない例文

なお、“有点”と“只是”以外の表現では、「ちょっと」を無視した訳が多かった。例えば、“禁止吃零食”（飲食はできません）、“不可以吸烟”（タバコは吸えません）、“不能更改”（変更はできません）などがそれである。この用法は文脈に左右される部分も多く、当てはめられない例文では、「ちょっと」が取り消されることがある。

（4）指導ポイント

以上のように、この用法では、当てはめられる例文には副詞の“有点”と“只是”が、当てはめられない例文には直訳などが用いられている。先に述べた「否定的内容の前置き」と同じく、こうした違いも、中国人日本語学習者が「ちょっと」の暗示的な意味を理解できない原因の一つだといえる。この点に注意して、中国人日本語学習者に対して、「日本語の『ちょっと』は、相手のお願いなどを、やわらかく断るときに使います。この特徴は、中国語の“有点”と同じです。ただ、『ちょっと』には、『だめです』『できません』という意味が含まれています。そして、『ちょっと』は、『明日はちょっと…』のように、文を最後まで言わないで、言いにくい言葉を省略することができます。また、言葉だけを聞くと、“只是”のような『少し気になることがあります』という程度の意味にも聞こえます。でも、本当は『だめです』『できません』という意味が含まれています。このような便利な言葉を使えるようにしましょう。そして、日本人に日本語で断るときは、そのまま『ダメです』と、はっきり言わないように気をつけましょう。」と説明すれば、理解しやすいだろう。その際に、こうした例文を板書やレジュメで提示すると、より効果的である。

2.4.呼びかけ

この用法の中国語について、97例のうち、感嘆詞の“喂”が35例、感嘆詞の“等一下”が35例であった。主に、この2種類の中国語が対応していることが確認できる。下記において、それぞれの言語上の特徴、および指導上の注意点を分析していく。

(1) “喂”

感嘆詞の“喂”は、呼びかけに用いるときの、日本語の「おい」「もしもし」などに当たる。例えば、“喂，忘记东西了”（おい、忘れ物だよ）、“喂，来一下好吗？”（おい、来てくれないか？）、“喂，是张先生吗？”（もしもし、張さんですか？）などがそれである。いずれも不注意や無自覚な相手を、談話へ引き込むための感嘆詞の役割を果たしている。この点で、「ちょっと」と一致している。ただ、目下か同等に対して使う表現であり、目上に対しては使わない。また、知り合いには使うが、初対面の相手には使わない。

(2) “等一下”

感嘆詞の“等一下”は、呼びかけに用いるときの、日本語の「ちょっと待って（ください）」という表現に当たる。例えば、“请等一下，掉东西了”（ちょっと、落とし物ですよ）、“请等一下，请您再说一遍”（ちょっと、もう一度言ってください）、“请等一下，可以提下问题吗？”（ちょっと、質問いいですか？）などがそれである。いずれも不注意や無自覚な相手を、呼び止めるための感嘆詞の役割を果たしている。この点で、「ちょっと」と一致している。

(3) 当てはめられない例文

しかし、こうした感嘆詞だけでは当てはめられない例文もある。例えば、“请问，这附近有公交站牌吗？”（お尋ねしますが、バス停は近くにありますか？）、“不好意思，请检查一下”（すみません、これをチェックしてください）、“对不起，我想找一下朋友”（ごめんなさい、友達を探しているのですが）などの文では、“请问”“不好意思”“对不起”のような“礼貌用语”（マナー用語）が当てはめられている。話し手と聞き手の状況などによって、さまざまな言葉が当てはまるのである。

(4) 指導のポイント

以上のように、この用法は“喂”“等一下”などの感嘆詞から、“请问”“对不起”などの“礼貌用语”まで、幅広い意味を包括している。多岐にわたる用法のため、これを習得していない中国人日本語学習者は少なくないだろう。したがって、中国人日本語学習者に対して、「日本語の『ちょっと』は、“喂”や“等一下”のように、相手に声をかけて呼びかけるときにも使います。また、“不好意思”や“对不起”のように、礼儀として呼びかけるときにも使います。いろいろな場面で使うことができる便利な用法です。覚えましょう。」と説明すれば、習得しやすいだろう。その際に、こうした例文を板書やレジュメで提示すると、より効果的である。

2.5. とがめ

この用法の特徴について、周（前掲論文）は「咎めの場合は、話し手が自分の利益を聞き手によって、損なわれたと思った時に、聞き手に不満、あるいは怒りを表す時に用いられる。『ちょっと』が付加されることによって、話し手は不満の気持ちをより一層はっきり表すことになる」と述べている。すなわち、話し手と聞き手の利害関係において、話し手が聞き手から利益を受けようとするとき、和らげの効果が働き、話し手が聞き手より不利益を受けたとき、とがめの効果が働くというものである。先に取り上げた依頼の用法と絡ませて、この用法の特徴を如実に表している。

なお、「ちょっと」にプロミネンスを置いて、相手へ注意喚起することから、「呼びかけ」の派生した用法とも捉えられる。

ここでの問題は、話し手の不利益において、本来の例文と同じく、当てはめられる例文が不満や怒りの感情を表し切れるかである。場合によっては、どちらかが強かったり弱かったりもする。こうした特徴は、中国人日本語学習者の誤用につながる原因の一つだと考えられる。それも視野に入れて、対照分析を進めていきたい。

この用法の中国語では、54例のうち、感嘆詞の“喂”が19例、副詞の“别・不要”が19例であった。主に、この2種類の中国語が対応している。下記において、それぞれの言語上の特徴、および指導上の注意点を分析していく。

(1) “喂”

すでに述べたように、感嘆詞の“喂”は、呼びかけるときに発する語である。また、“喂”にプロミネンスを置くことで、「おい!」のように相手に強く呼びかけるときに発する語にもなる。例えば、“喂! 这个商品怎么坏了”（おい! 商品が壊れているよ）、“喂! 这和预定的东西不一样”（おい! 頼んだものと違うよ）、“喂! 怎么还没有完”（おい! まだ終わっていないよ）などがそれである。いずれも相手に強く呼びかける点で、日本語の「ちょっと!」と一致する。しかし、「ちょっと!」のように、相手の行為や言動を注意する用法ではなく、相手呼びかける用法となっている。すなわち、“喂”は「ちょっと」ほど、注意喚起の力を持っていない。これは日本語と中国語で際立って異なる点である。

(2) “别・不要”

副詞の“别”と“不要”は、どちらも行為の禁止を表す。例えば、“不要碰!”（それに触るな!）、“不要开玩笑!”（ふざけるな!）、“别说话!”（おしゃべりするな!）などがそれである。動詞の前につけて、「～してはいけない」「～するな」のように、相手への行為の禁止を表している。いずれも直接的な表現である。そのため、日本語の「ちょっと!」よりも、相手を強く注意するものになってしまう。

(3) 当てはめられない例文

話し手と聞き手の状況によっては、“给我适可而止!”（いい加減にしろ!）、“这不行!”（まずいよ!）、“饶了我吧!”（勘弁してくれ!）のように、相手を咎める内容で

「ちょっと」を無視した訳もある。したがって、日本語の「ちょっと！」がある表現よりも直接的なニュアンスになる。

(4) 指導のポイント

以上のように、相手への呼びかけにプロミネンスを置く場合には、感嘆詞の“喂”が、相手への行為禁止に重点を置く場合には、副詞の“別・不要”が用いられている。先に述べた「呼びかけ」の特徴と同じく、日本語の「ちょっと」が幅広い意味を包括している。多岐にわたる用法のため、これを習得していない中国人日本語学習者も少なくないだろう。したがって、中国人日本語学習者に対して、「日本語の『ちょっと』は、“喂！”のように、『おい！』と怒って、強く呼びかけるときにも使います。また、“別・不要”のように、『するな！』と怒って、行動を禁止するときにも使います。でも、『ちょっと！』は、はっきり『するな！』と伝えるものではありません。『ちょっと！』を言葉の前に置いて、これから注意するということを、相手に伝えるものです。もしも、言葉の前に置かないで、そのまま使うと、相手が驚いてしまいます。日本人に日本語で注意するときには、そのまま言うのではなく、『ちょっと』を使って相手を傷つけないように気をつけましょう。」と説明すれば、習得しやすいだろう。その際に、こうした例文を板書やレジュメで提示すると、より効果的である。

2.6. 間つなぎ

この用法の中国語では、9例のうち、それぞれが当てはめられない例文であった。下記において、それらの言語上の特徴、および指導上の注意点を分析していく。

(1) 当てはめられない例文

それぞれ、“那个，那个，我忘了…”（あの、ちょっと、忘れてしまって…）、“那个，那个，我丢了…”（その、ちょっと、失くしてしまって…）、“这个…怎么说呢，我也说不好…”（ちょっと、なんというか、言葉に表せなくて…）のように、話のきっかけを作るとき、言葉に詰まったときに発する語が確認できた。中国語では、“那个”（あの）、“这个”（その）などのフィラーが多く使われる⁹⁾。いずれも話し手の思い込みや、話し手と聞き手の状況によって多様な様相を呈している。そういう点で、日本語のフィラーの特徴とあまり変わらない。

(2) 指導のポイント

このように、他の用法よりも、さまざまな影響を受けやすく、特定の当てはめられる例文は見当たらない。それは日本語のフィラーでも同じである。また、あまり重要な指導項目にはならないだろう。したがって、中国人日本語学習者に対して、「また、日本語で会話をしていて、なかなか言葉が出ないとき、よく『あの～』『その～』などの言葉を使います。それらの言葉と同じように、『ちょっと～』と使うこともあります。中国語の会話でも“这个”、“那个”を使ったり、“怎么说呢”を使ったりします。日本語も中国語も、いろいろな場面で、いろいろな言葉を使います。『ちょっと～』もそのうちの一つで

す。今度、日本人と会話するときには耳にしたら、このことを思い出してみてください。」と説明すれば、理解しやすいだろう。その際に、こうした例文を板書やレジュメでいくつか提示すると、より効果的である。

3. まとめ

本研究では、日本語学習者の副詞「ちょっと」の習得について考察してきた。とりわけ日本語と中国語の対照分析から、どのような用法のとき、どのような特徴を説明すればいいのかを考察してきた。その際に、岡本・斉藤(2004)の用法を参考にした。以下に、それぞれの用法の特徴と、指導ポイントをまとめたい。

「依頼や、希求、指示行為の負担をやわらげる」用法について、中国語では“一下”、AA型、“一点”で、和らげや暗示的な強めの役割を果たしている。そして、“一下”構文は時間の短さ、「AA型」構文は気軽さ、“一点”構文は数量の少なさによるものとして、役割が分担されている。指導のポイントとして、それぞれの役割が、日本語の「ちょっと」の側面だということを提示するのが大事である。また、「ちょっと」の暗示的な強めの存在を伝える必要がある。

「否定的内容の前置き」用法について、中国語では“有点”や“不太”によって、間接的に否定的内容を伝えている。また、“太～”によって、直接的に否定的内容を伝えている。指導のポイントとして、日本語の「ちょっと」における、“有点”や“不太”のような和らげ、また、“太～”のような程度大の意味を伝えることが大事である。そして、「ちょっと」の暗示的な強めの存在を伝える必要がある。

「断りを受けやすくする」用法について、中国語では副詞の“有点”や“只是”が、和らげの役割を果たしている。指導のポイントとして、日本語の「ちょっと」は、和らげを持ったうえで、“有点”よりも、暗示的な意味が強い。また、“只是”よりも、確実な内容だということを伝えるのが大事である。

「呼びかけ」用法について、中国語では感嘆詞の“喂”や“等一下”の言葉で、掛け声として呼びかけている。また、“礼貌用语”の“不好意思”や“对不起”の言葉で、礼儀として呼びかけている。指導のポイントとして、両者の呼びかけの役割が、日本語の「ちょっと」の特徴だということを提示するのが大事である。

「とがめ」用法について、中国語では感嘆詞の“喂”を用いて、相手に強く呼びかけている。また、副詞の“别・不要”を用いて、相手の行為を禁止させている。指導のポイントとして、両者のとがめの役割が、日本語の「ちょっと」の特徴だということを提示するのが大事である。また、日本語の「ちょっと」は、注意の内容というより、むしろ注意のアナウンスだということを伝える必要がある。

「間つなぎ」用法について、日本語でも中国語でも、話し手の思い込み、話し手と聞き手の状況によって、多様な表現が用いられている。指導のポイントとして、「あの」「その」「なんて言ったらいいのか」などと同じく、「ちょっと」もフィラーとして使われる

ことを提示する。その際に、中国語のフィラーもいくつか提示する。中国語のフィラーと同じく、「ちょっと」も数ある日本語のフィラーの一つだということを提示するのが大事である。

以下において、日本語教育における指導上の参考となるように、それぞれの用法の特徴と、指導ポイントを表にまとめたい。

依頼や、希求、指示行為の負担をやわらげる	<p>“一下”、AA型、“一点”</p> <hr/> <p>1. 「ちょっと」は“一下”の時間の短さの特徴を持っている。</p> <p>2. 「ちょっと」は“AA型の気軽さの特徴も持っている。</p> <p>3. 「ちょっと」は、“一点”の数量の少なさの特徴も持っている。</p> <p>4. 「ちょっと」の方が暗示的な強めを持ち、使用頻度が高い。</p>
否定的内容の前置き	<p>“有点”、“太・不太”</p> <hr/> <p>1. 「ちょっと」は“有点”や“不太”と同じく和らげを持つ。</p> <p>2. 「ちょっと」は“有点”や“不太”よりも暗示的な強めを持つ。</p> <p>3. 「ちょっと」は“太～”と同じく程度大の意味を持つ。</p>
断りを受けやすくする	<p>“有点”、“只是”</p> <hr/> <p>1. 「ちょっと」は“有点”の特徴と似ている。</p> <p>2. 「ちょっと」は“有点”よりも暗示的な強めを持っている。</p> <p>3. 「ちょっと」は“只是”よりも確実な意味を持っている。</p>
呼びかけ	<p>“喂”、“等一下” / “不好意思”、“对不起”</p> <hr/> <p>1. 「ちょっと」は“喂”や“等一下”の掛け声の意味を持つ。</p> <p>2. 「ちょっと」は“不好意思”や“对不起”の挨拶の意味も持つ。</p>
とがめ	<p>“喂” / “别・不要”</p> <hr/> <p>1. 「ちょっと」は“喂”のような注意の呼びかけの意味を持つ。</p> <p>2. 「ちょっと」は“别・不要”のような強い注意の意味を持つ。</p> <p>3. 「ちょっと」の方が注意のアナウンスの特徴が強い。</p>
間つなぎ	<p>当てはめられない例文</p> <hr/> <p>1. 中国語の間つなぎと同じく、いろいろな種類の中の一つである。</p>

以上のような特徴を、中国人日本語学習者に指導すれば、副詞「ちょっと」の習得につながるだろう。本研究では、対照分析の視点から、それぞれの用法の特徴を考察してきた。当然、“有点”や“一点”だけで「ちょっと」を表現できるわけではない。あくまでも当てはめられる例を網羅しただけである。日常会話において当てはめられない例は当てはまる例より多い。今後、より多くの例文を収集することで、深い分析を行っていききたい。そして、そこで得た知識を教材作りや学習指導に生かしていきたい。

また、日本語の「ちょっと」の用法を理解していない中国人日本語学習者は少なくない。そのため、会話や作文などで、こうした誤用自体が表れない場合もある。今後、日本語学習歴や日本語レベルを考慮しながら、こうした誤用例を収集していきたい。そして、対照分析だけでなく、誤用分析の研究にも挑戦したい。

注

1. 言語資料として、日本の小説とその中国語翻訳を利用した。以下の、日本語と中国語の52冊の書籍がそれである。なお、例文の検索方法は1冊1冊のチェックによるものである。

石田衣良(2005)『池袋ウエストゲートパーク』(文芸春秋) / 市川拓司(2005)『いま、会いにゆきます』(小学館) / 市川拓司(2003)『恋愛寫眞』(小学館) / 岩井俊二(2005)『ラブレター』(角川書店) / 岩井俊二(2007)『スワロウテイル』(角川書店) / 江国香織(1996)『落下する夕方』(角川書店) / 小川洋子(2005)『博士の愛した数式』(新潮社) / 恩田陸(1998)『六番目の小夜子』(新潮社) / 恩田陸(2004)『夜のピクニック』(新潮文庫) / 片山恭一(2004)『世界の中心で、愛をさけぶ』(小学館) / 木藤亜也(2005)『1リットルの涙』(幻冬舎文庫) / 小松左京(2006)『日本沈没』(小学館) / 島田洋七(2006)『佐賀のがばいばあちゃん』(徳間書店) / 谷村志穂(2005)『海猫』(新潮文庫) / 東野圭吾(2008)『秘密』(文芸春秋) / 松久淳+田中渉(2007)『恋火』(新潮社) / 松本清張(2007)『砂の器』(新潮文庫) / 松本清張(2005)『点と線』(新潮文庫) / 宮部みゆき(2006)『ブレイブ・ストーリー』(角川文庫) / 村上春樹(2008)『ノルウェイの森』(講談社) / 山崎豊子(2002)『白い巨塔』(新潮文庫) / 山崎豊子(2002)『女系家族』(新潮文庫) / 柳美里(2000)『命』(新潮文庫) / 吉田修一(2004)『東京湾景』(東京湾景新潮社) / リリー・フランキー(2007)『東京タワー』(扶桑社) / 渡辺淳一(1996)『化身』(講談社文庫)

石田衣良(2008)『池袋ウエストゲートパーク』(上海人民出版社) / 市川拓司(2007)『现在只想爱你』(南海出版社) / 市川拓司(2008)『相约在雨季』(青岛出版社) / 岩井俊二(2004)『情书』(天津人民出版社) / 岩井俊二(2005)『燕尾蝶』(天津人民出版社) / 江国香织(2006)『沉落的黄昏』(北京十月文艺出版社) / 小川洋子(2005)『博士的爱情算式』(人民文学出版社) / 恩田陆(2007)『第六个小夜子』(人民文学出版社) / 恩田陆(2007)『夜晚的远足』(人民文学出版社) / 片上恭一(2004)『在世界中呼唤爱』(青岛出版社) / 木藤亜也(2007)『一公升の眼泪』(吉林文史出版社) / 小松左京(2005)『日本沉没』(四川科学技术出版社) / 島田洋七(2007)『佐贺的超级阿嬷』(南海出版公司) / 谷村志穂(2006)『海猫』(云南人民出版社) / 东野圭吾(2008)『秘密』(海南出版社) / 松久淳+田中渉(2006)『恋火』(青岛出版社) / 松本清張(2007)『砂器』(南海出版社) / 松本清張(2007)『点与线』(南海出版社) / 宮部美雪(2007)『勇者物語』(北京十月文艺出版社) / 村上春樹(2008)『挪威的寻林森林』(上海译文出版社) / 山崎豊子(2002)『白色巨塔』(東方出版社) / 山崎豊子(2007)『女系家族』(花山文艺出版社) / 柳美里(2006)『命』(南海出版公司) / 吉田修一(2008)『东京湾景』(文出版社) / 利利弗・兰克(2007)『东京塔』(中信出版社) / 渡辺淳一(2001)『化身』(译林出版社)

2. 研究をより確実なものとするため、言語資料として、「中日対訳コーパス」（北京日本学研究中心）も利用した。主に、中国語の意味・用法などを確認した。
3. 中道氏の論文中の「もうちょっと」、「ちょっとやそっと」、「ちょっとした」の形の用法は、本研究では引用していない。
4. 「当てはめられる例文」は、全例文のうちの20%以上を基準としている。それ以外は、「当てはめられない例文」として扱っている。
5. 本論文の例文では、日本語の小説をもとに、“ ”に翻訳版の中国語訳を、()にその中国語の意味を記している。中国語訳によっては、「ちょっと」を無視したものや、暗示的な意味だけを訳したものがある。言葉を省略したり、近い意味の言葉に置き換えたりしている。したがって、「ちょっと」のニュアンスが、必ずしも中国語の意味()に反映されているとは限らない。
6. 本研究では、10人の中国語母語話者にお話し、中国語の表現方法やニュアンスなどの確認を行った。本文中のものは、中国語母語話者の意見によるものである。その他にも、「有点」は形容詞や動詞の前に置かれる。「有些」は主に名詞の前に置かれる、「有些」は南方の地域で多く使われている」などがあつた。
7. 中国語母語話者の意見をまとめると、「中国語の“有点”は“很”に近いが、“很”よりも程度は高くない。『基準よりも上』というイメージが強い」というものであつた。
8. 特徴の補足として、“有点”は“我有点不舒服”（わたしは少し気分が良くない）のような“贬义词”（けなす意味合いを持つ語）と結びつきやすく、“好”（良い）のような“褒义词”（ほめる意味合いを持つ語）には、“不太”が使われることが多い。つまり、“不太”と入れ替える場合は、“有点不”の形にする必要がある。
9. 中国語母語話者の意見では、「“那个”は言い訳をするときに、“这个”はスピーチをするときに使われるイメージがある」というものがあつた。

参考文献

- 彭飛(2004)『日本語の「配慮表現」に関する研究—中国語との比較研究における諸問題—』(和泉書院) pp149-157
- 彭飛(2006)『日本人と中国人とのコミュニケーション—「ちょっと」はちょっと… ポンフェイ博士の日本語の不思議—』(和泉書院)
- 中道真木男(1991)「副詞の用法分類—基準と実例—」(国立国語研究所『日本語教育指導参考書—副詞の意味と用法—』) pp149-151
- 岡本佐智子・斉藤シゲミ(2004)「日本語副詞『ちょっと』における多義性と機能」(『北海道文教大学論集』第5号) pp69-71
- 周国龍(1994)「要求行為における『ちょっと〜』の機能に関する一考察」(『名古屋大学人文科学研究23号』名古屋大学大学院研究科) pp177-178